



平成15年1月号 No.441

広報かなぎ



しっかり結んで願いを

元旦、金木の八幡宮境内で今年も良い年であるようにと願いをこめて、おみくじを結ぶ親子。
この日、八幡宮には約2000人の参拝者が訪れました。



けまして 未年 ごぞいます

年頭のあいさつ



町長 鳴海 義男

希望に満ちた輝かしい平成十五年の新春を御家族お揃いでお健やかに迎えのことと心からお喜び申し上げます。

今年には財政厳しい折柄ながら、太宰治記念館「斜陽館」や「津軽三味線会館」など、観光立町を政策として推進している我が金木町の顔とも言えるべき津軽鉄道金木駅舎の改築を実施していく所存です。

金木駅舎は築後四十数年経過しているため、老朽化が激しく、待合

室が薄暗い状態で、観光客や鉄道の利用客からの苦情が多い古いタイプのトイレがあり、悪臭が激しく、不人気でありましたが、新駅舎は、水洗化を図るとともに一階部分に駅事務室と待合室を配置し、観光案内所の役割を持ち、それによって地域住民が憩え、集会所としても利用できる交流プラザ(仮称)を駅舎二階に整備、このことにより観光地として核ができるものと期待するとともに、観光客の増加が予想されることから、観光施設整備を推進して行き、今まで埋もれていた新たな観光資源発掘につなげていければと考えています。

平成十二年度から個性と活力に満ちた雪国創造事業による新雪施

設として整備してきた町営嘉瀬スキー場に設置する一・八kmのクロスカントリーコースと既存の夜間照明設備の改修が終了、今冬より本格的にジャンプ、距離、そしてジャンプと距離を合わせた複合競技に対応できる施設が完成、小学生を対象とした各種大会が開催されます。このことから、県内外より南中飛行隊と言われた金木南中学校スキー部ジャンプ陣の復活を大に期待するものです。

町の基礎産業である農業は、これからも稲作が中心であることはもちろんであります。ハウスを積極的に活用したトマトやねぎの作付拡大、そして、ばれいしょ等の露地野菜の収穫量を増大させ農業所得の向上を図るとともに、転作への協力の一つの転機となった生産調整協力奨励券交付

の最終年となり、年間交付額を約一千万円と見込んでおり、このこととさらに転作協力へ自発心を惹起できるものと考えております。

生活環境の整備については、広範な車社会への対応として交通安全や冬の快適な生活を維持するため、防雪柵設置を図っていくとともに、老朽化した町営住宅の建替え等を実施するため、今年用地取得に着手します。

さらに、高齢化社会の到来に対応した福祉政策の充実を図っていくべく、重要課題である町村合併問題をも踏まえて、町政の舵取りをしていきたいと考えておりますので、町民の皆様のご指導の程宜しくお願い申し上げます。終わりに、町民の皆様方の御健勝、御多幸を心からお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

2003

新年あ おめでとう

年頭 の 辞



議長 三濁 春樹

新春を迎え、町議会を代表し町民の皆様方に心からお祝いを申し上げます。

昨年、県内ではリンゴの無登録農薬の使用により、農薬を使わないリンゴ農家にも多大の影響があったのではないかと思います。

幸いにも、その後安全宣言が出ましたが、野菜や果樹と全国各地でこの農薬の使用が判明し、当町では使用した農家はいなかったようですが、今後生産者は十分注意しなければ

ならないと思います。

一方国外では、アフガニスタンの米国を支援するため、海上自衛隊の艦船が派遣され、それに続きイラクでの大量破壊兵器の査察が始まるなど中東情勢は緊迫化しております。

又、テロ組織アルカイダによると思われる爆弾テロ事件も世界の各地で発生し、日本人にも被害が出ています。

日本国内でも、いっどこで発生するかもしれないので、旅行等にお出かけの際は注意していただきたいと思っています。

さて、平成十五年の町議会としては、昨年八月の集中豪雨の経験を踏まえ金木川の改修工事が一年でも早く完成するように、さらに県道屏風山内真部線の

通年通行が可能となるよう国、県に強く要望していきたいと思っております。

又、町村合併問題については、鳴海町長が昨年の十二月九日の議員全員協議会で、二町二村の方向性を打ち出しましたので、早急に法定協議会を設置するよう働きかけたいと思っております。

平成十五年度の町の財政状況は、今まで以上に非常に厳しいようですが、議会としても町発展のため町民の皆様方の負託に応えていきたいと思っております。

最後に、町民各位のご健勝とご多幸を祈念して新年のご挨拶いたします。

副議長

中谷 秀八

議員

高杉 利彦

田中 昇

古川 幸治

秋元 洋子

田中 賢一

伊藤 永慈

川口 隆

原田 寛

野宮 穂

桑田 一茂

小田 喜吉

謹んで初春のお慶び申し上げます

金木町議会

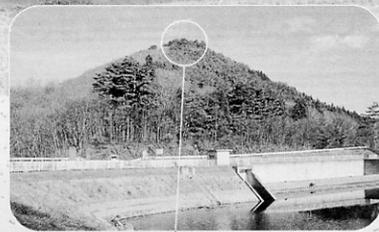
伝承をねる



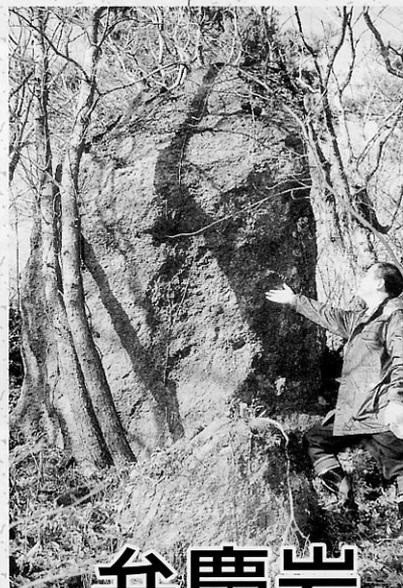
ま はげ やま
馬禿山

金木川の8キロほど上流に位置する八の字型で標高175mの馬禿山。この中腹にある赤土は、義経一行の馬の足跡で禿げたとするものや、一行の船が衝突してできたものと伝えられている。

また、昔日本海を航行した船頭たちがこの禿山を目印にしたといわれている。



義経北方伝説



弁慶岩

鹿の子ダムの北側にあり馬禿山の近くに位置し、屋根の形に似ていることから屋形森山と呼ばれている山がある。

徒歩で15分くらい昇った頂上には、大小の岩が点在している中に、畳約2畳ほどの広さで高さ約3mはある巨石が、木々に囲まれてそびえ立っている。

この巨石が鹿の子の弁慶岩と呼ばれ、弁慶が担ぎ上げたものと言われている。

智謀と武力に秀でた武将として平家一門打倒の功者でありながら、のちに鎌倉幕府征夷大将軍となった兄の頼朝に追われる身となった源義経。歴史上では、弁慶らとともに奥州平泉に落ち延びたが、この地において襲われ三十一歳の若さで自殺したとされている。しかし、伝承では、義経一行は宮古浄土ヶ浜より船（一説には陸路とある）で太平洋沿岸を北上し八戸へ。さらに北を目指して六ヶ所、そして青森を訪れたおりに十三湊から迎えがあり同地を訪れている。そして蝦夷を目指した義経一行は、三厩から海を渡り蝦夷松前に着いたとされている。この足取りを裏付けるかのようには岩手・青森・北海道にたくさんの伝説や遺跡がある。

金木町においても、義経一行により山の一部が禿げたとされる馬禿山、弁慶が山の頂上に担ぎ上げたといふ鹿の子の弁慶岩などが伝承されている。

町長とViC・ウーマンとの語る会

今後の農村女性活動や 地域活性化の推進について

金木地域農業改良普及センター（所長 大寺久蔵）が主催した町長とViC・ウーマンとの語る会が十一月十五日、役場さくらの間で開催されました。

町の農村女性活動や地域活動の現状を町長に紹介し、活動を理解してもらおうとともに今後の女性活動や地域活性化活動について意見交換することで、ViC・ウーマンとしての活動の方向性、役割について理解してもらおうと、町内のViC・ウーマン五人が出席して行われました。

鳴海町長は講話で「昨年、今年と地方交付税が二億円近く削減され、厳しい財政状況で市町村合併しなければいけない状態になってしまった。米生産農家も収穫後の支払いができない状況にあり、商店街も空洞化しつつあります。ViC・ウーマンとして、農家の若い人たちに夢と希望をあたえる指導・アドバイスをお願いしたい」と話していました。

続いて、農村女性が組織する団体と家族経営協定及び男女共同参画の現状説明。ViC・ウーマンがそれぞれの活動を発表しました。

座談会に入り、出席者から「マデニー前での直売は観光客が多くよく売れているが、寒くて大変なので防寒対策をお願いしたい」「海外研修は勉強になるので、若い人たちにも経験させてほしい」「町の加工品を知らない人が多いので消費者との交流会があればよい」との要望に、鳴海町長は「厳しい財源ですが地域活性化に向けて、できるだけ努力します」と話していました。



ViC・ウーマンとは

地域のよりよい「農林水産業とくらしを指揮する女性リーダー」を意味し、優れた地域活動の実績を持つ農山漁村女性リーダーを町が推薦し県が認定した方のこと。

金木町のViC・ウーマン6名の活動等をご紹介します。



白川 セツさん
(沢 部)

津軽北部農協の女性部長として活動し、花いっぱい運動などで頑張っている



川口 恵子さん
(蒔 田)

生活改善グループリーダーとして、家族経営協定などに取り組んでいる



中谷 ミツさん
(川 倉)

川倉農産物加工部会として手打ちそばづくりに挑戦している



角田 和子さん
(金 木)

各種研修会に積極的に参加し、農協若手女性部の育成に取り組んでいる



竹内久美子さん
(金 木)

農村環境づくりや生活改善グループ員として活動している



土岐 和子さん
(嘉 瀬)

嘉瀬の加工部で、豆腐、味噌などの農産物加工に取り組んでいる